

『子供を伸ばす教育法』

～部活強豪校の監督とスーパーティーチャーとの関係性』

2年次 1組 9号 氏名 工藤 康太

1. テーマ設定の理由

今年の1、2月の休校だった期間に、将来の仕事について真剣に考えた。そして「教師になりたい」という夢ができた。そこで、教育に関することを調べたくなり、「子供を伸ばす教育法」について調べたいと思った。

2. 探究活動の概要(abstraction)

部活動の強豪校やスーパーティーチャー（指導教諭）など優れた指導力を持つ先生方に直接インタビューやアンケート調査を行った。調査内容は①「叱る」指導と「褒める」指導の違いと特徴、②生徒との信頼関係の築き方、③児童生徒との接し方、④教える立場にいて留意していること、以上の4つのデータを基に「最も子どもを伸ばせる教育方法」について自分なりに考察したことをまとめた。

3. 調査内容・探究活動の計画

ア) スーパーティーチャーの指導法と部活強豪校の監督の指導法にはどのような特徴があるか。
イ) 特徴を活用した指導法について考察
ウ) 考察した指導法を踏まえて「子供が最も伸びる教育法とは何か」をさらに考察する。

4. 調査結果の整理と分析

ア) インタビューやアンケート調査を通して大切だと思った部分を列記する。
・その人をしっかり見る（観察する）
・生徒を自分なりに理解し一人一人と接する。
・自分自身の経験や失敗談を話す。
・絶対に嘘は褒めない。
・性格や心理状態を読み、接し方などを意識する。
・同じ目線で話す。（生徒に合わせた話題）
・今と思うときにときを逃さずに本気で怒る。褒める時も本気で自分も同時に喜ぶ。
・男子と女子で褒めるタイミングや場所に常に配っている。
・基本の大切さ、一番の素質とは何かを考える。
・運動神経や体格ではなく「素直な心」「自分に負けない克己心」「常に目標や夢に向かって努力できる」生徒が最高の素質を持っていることを忘れない。
・諦めない。最後まで付き合う。妥協しない。
・生徒たちの前で話す時大きな声ではっきりと言葉を選んで話す。
・予想外のことが起きても焦らず落ち着いて対応する。

イ) ア) を参考に考察した目指したい指導法

- 1) 生徒との信頼関係を築くためどういう人かを見て自分なりに理解する。そして生徒とコミュニケーションを取る。例（子どもたちに合わせた話題で話をしたり、時には自分の様々な経験や失敗談などを隠さずに話すなど）
- 2) 生徒に接するときの工夫としてその人の性格や心理状態を見て話す場所やタイミン

グ、声の大きさやトーンなどを調整して、ほんの少しの変化を見逃さない。

- 3) 怒るタイミングと褒めるタイミングとの工夫としてまずだめだと思うときには（いけないこと、危ないことをしているなど）しっかり叱る。しかし時と場合によるがただ怒るだけではなく少しのフォローは忘れずに入れる。
- 4) 自分が教える立場になった時重要にしたいこととして自分の経験からすべての成功の秘訣は努力をすることで「努力をすれば必ず結果につながる」という自信を生徒に与える。

ウ) 思索した指導法を踏まえて私の考える子供が最も伸びる教育法

1. 自分なりにどういう人かを理解し、コミュニケーションを取る。
2. 性格や心理状態を見て話す場所やタイミング、声の大きさやトーンを調整する。
3. ほんの少しの変化を見逃さない。
4. だめだと思うときには（いけないこと、危ないことをしている）しっかり叱る。
5. 時と場合によるがただ怒るだけではなく少しフォローは忘れずに入れる。
6. 全ての成功の秘訣は努力をすることというのを強く伝える。
7. 思索話をするときには子どもたちの刺激になるように言葉を選ぶ。
8. 子どもたちと意識して話す。

5 探究活動を通しての気づきと学び

今回の探究活動を通して、学校の先生達が生徒たちに様々なことを教えるためにどのような工夫をしているなどを詳しく調べることができた。そして私自身も私の思う子供を伸ばす教育法についてしっかり考えることができた。もちろん今回私が考えたことは全て正しいとは言えない。私自身まだ見えていない部分もあり、もっともっと経験を積んでいき、さらにわかってくる面があると思うので、これから様々なことにチャレンジしていきたい。

6 今後取り組みたいこと（次の課題）剣道やボランティアなどを通して実際に他学年の人たちや中学生、小学生などとふれあい様々な活動などに取り組んでいきたい。

7. 参考文献 熊本県ホームページ